

ようになってしまいました」
97年から5年続けて、ゼファー1100で北海道へ渡り、各地を走り回った関さんだが、その先には新たな展開が待っていた。

オフを楽しめれば オンはもっと楽しい

関さんの前に姿を現した新たな道、それはダートだった。

「ゼファーでお世話になってるカワサキのショップで『KDX125SR、これが最後の1台なんだよ。2ストオフローダーなんてもう手に入らないよ。どう?』って言われたんです。昔から『最後の1』ってのに弱くて。でもその後、また別のお客さんにも売ってたのを見たんだけどなあ(笑)」

かくして、DT50以外は未経験だったというオフロードバイクを手に入れた関さんだが、すぐその楽しさに魅せられていく。群馬県在住とあって、近隣には、林道が豊富にあり、「すべて当然、転んでも怖くない」というダートでの走りは、関さんにとって新鮮そのものだった。

「林道ではすべるのが当たり前ですから、グリップとかスロットルワークについての考え方もすごく変わりました。もちろんそんなに飛ばせるわけじゃありませんけど、考え方が違うか、感じ方が変わったような気がします。気持ちのマーキングが増えたっていう感じかもしれませんね」

あれよという間にダート走行の魅力に取りつかれた関さん。125ccというキャパシティに物足りなさを感じるようになるまでも、あつという間だった。

「KDX125SRを買ってから1年も経たずにKDX220SRを手に入れてしまいました。これならパワフルに走れるのはもちろん、高速も走れますからね」

原付二種から、セミフルサイズのオフロードバイクへ。高速道路も走れるKDX220SRで、関さんのダートツーリングは、さらにその範囲を広げていく。そして…

「ゼファーで5年、北海道に通ったんですが、北海道には、それこそ星の数ほど林道があるんですよ。ゼファーだと、指をくわえて見てなくちゃなりませんでした。ですから、02年の北海道ツーリングには、KDXで出かける決心をしたんです」

オフロードバイクで出かける北海道。関さんの目の前に、新しい道が開けた瞬間だ。

「最初の年は、2ストオフローダーの燃費が分からなくて、北海道を走るともかなり緊張を強いられました。ですが、それを上回る楽しさがあったんです。舗装の有無を問わず、目の前の道をどんどん走っていきけるんですから。北海道でこれ以上に楽しいことなんてありませんよね」

日ごろのツーリングでは、目的を絞って、オンかオフかを選んで楽しむことができる。けれど限られた日程のなかで、全部入りのツーリングを楽しみたい北海道では、オンオフを問わず走りを楽しめるオフロードバイクが一番の相棒になる。それが関さんの結論のようだ。

こうして新たな楽しみをもって関さんの眼前に広がりはじめた北の大地。02年以降、関さんが北海道へと伴う相棒はつねにオフロードバイクとなっている。

「林道では滑って当然。 考えが変わりましたよ」

関 越也さん

群馬県在住のソフトウェアエンジニア。16歳で二輪免許を取得以来、30年におよぶバイクライフを送る。ゼファー1100からスタートしたカワサキ車との生活も20年に迫ろうとしているが、その勢いはとどまるところを知らない。週末の相棒はいつもバイクだ

「KDXは今でも現役なんです。さすがにくたびれてきたのと、燃費の問題などもあって、今ではKDX250がメインになっていますね。これも『最後の08モデルだよ』って言われて買ったんですけど(笑)」

インジェクション化された水冷4ストロークエンジンと、最新の足まわりを持つKDX250は、関さんをさらに北海道の山ふところへと誘うパートナーとなっている。

「ゼファーとは逆で、オフ車については基本的にノーマルで乗るようにしています」と話す関さんだが、細部にほどこされたドレスアップパーツはしっかりとツボを押さえている。

今でも、週末ごとに走りを楽しむ関さんのバイクライフは変わらない。だがその比率は、オン/オフがおよそ半々だという。

「でもね、走りに行く仲間が、オン

でもオフでもあまり変わらないんですよ。私が『林道って楽しいよ』なんて言ったら、いつもの仲間も次第にオフ車を手に入れ始めて、オンでもオフでもメンツが共通になってきちゃったんです」

オフで開眼した新しい走りの楽しみ。だからこそ、オンでも一層楽しいは、その仲間たちにも確実に広がっているようだ。

ゼファー1100とKDX220SR・KDX250、一見すればまったく違った方向性のマシンに見えるが、そこに通じるカワサキらしさとは、関さんにとって流されない個性だという。バイクとの向き合い方も、そして、自分の時間を惜しみなく走ることに費やすそのスタイルも、まさに関さんは出会うべくしてカワサキに出会った人なのであった。



憧れの放浪者たち



↑ZEPの輪で主催するイベントでは、数多くのゼファーが一堂に会す。互いのマシンとそのカスタムポイントについての情報交換はもちろん、オーナー同士の生の交流がうれしい

オーナーズコミュニティ「ZEPの輪」のメンバーとのツーリングにて、おそろいの赤ジャケットがまぶしい。白ごころは裏着な関さんだが、メンバーの前ではリーダーとしてはじける

